

## 教授選考方法についての意見交換 要旨

日時場所：2012/12/4 13:00～14:00 総合科学部第二会議室

組合側参加者：中央執行委員長、書記長、会計担当、常三島地区中央執行委員、同中央委員

大学側参加者：総合科学部長、副学部長、評議員、総合科学部事務長、総務係長、人事課課長補佐

### 【現状の問題点】

6月以降、人事委員会で議論された点：

- ・ 総合科学部は大講座制のため、全国公募を行った場合、同じ専攻分野の人が重複して在職する場合があります。
- ・ 教授が一人しかいない部門は発議できない。
- ・ 候補者への旅費支給が行われていない。

組合から指摘した点：

- ・ 全国公募ではかえって優秀な人が集まらない。(教授になろうという人は、現在、准教授クラスだが、そういう人は多くの場合、あえて徳島に移ろうと思わない。)
- ・ 実質内部昇任なのに全国公募にすると徳島大学の対外的な評価に傷がつく。
- ・ 公募にすると研究業績重視になりがちで、事務能力や教育能力が十分に評価されない。
- ・ 全国公募と内部昇任の違いは、業績等を比較する対象が「応募してきた人」か「昇任基準」か、という違いに過ぎない。(全国公募の場合、「教授としてふさわしいレベル」を下回る人しか応募してこなかったときには、「昇任基準」よりも比較対象のレベルが低下することになる。)

### 【今後の方針】

- ・ 他大学の状況や基準について情報収集を行ない、教授昇任の基準を明確化する。
- ・ 「公正性と透明性」があり、総合科学部の発展のために有効な、全国公募以外の方法を検討する。
- ・ 上記の点につき、次期執行部に申し送りをする。